仁義理古志

WLYC
135-

UNIVERSITY OF KANSAS LIBRARIES
D1410
RARE BOOKS

仁義礼智忠信

一 三 五 七 九

二 四 六 八 十

同縁

鷹 鳶 鳩 鴉 鵲 鶴 鶯 鵜 鷺 鷲

和漢佐國乃鷹

鷹牝牡毛

同相模之鳥

同峠取うの鳥

同速き鳥

同栄乃鳥

鷹之異名

鳶尾狐の事

同雛小屋掃除之事

同給餌之事

十二同地取之事

十三 同雉の捕事

十五 依國土鷹の異名

十七 鷹の巣来のこと

十九 鷹幼き異名

廿一 鷹を捕時節

廿三 上古鷹の名

廿五 鷹の巣立

十四 同病のより付り療治

十六 鷹近づく事

十八 鷹に付くる字義

二十 鷹物乃異名

廿二 網ころへ仕う事

廿四 奥州鷹の巣の名

教化衰
中の悍
来たな
七月鴉
秋よは
書吏と
こゝ名付
その逸
狷烈并

拱挙 宝
八鷹之圖 横
天地乃わ
のごそ
大人ニ
礼禮記云
玄鳥
雪
鳥乃雪
加鵄少
鵄と変
氏
仁和如
鵄
文人
玄人の
玄帝

乃時(とき)我朝(わがてう)人皇(にんわう)第(だい)卅代(せだい)用明(ようめい)天皇(てんわう)の御宇(ぎよう)に漢土(かんど)より
こゝに百濟(くだら)より後人皇(こうじんわう)第(だい)卅七代(せだい)仁徳天皇(にんとくてんわう)の御宇(ぎよう)に
あそこに神功皇后(じんぐうくわうごう)攝政(せつしやう)十七年丁酉(ていゆう)に
ここに百濟(くだら)より
あそこに神功皇后(じんぐうくわうごう)攝政(せつしやう)十七年丁酉(ていゆう)に
ここに百濟(くだら)より後人皇(こうじんわう)第(だい)卅七代(せだい)仁徳天皇(にんとくてんわう)の御宇(ぎよう)に
こゝに百濟(くだら)より後人皇(こうじんわう)第(だい)卅七代(せだい)仁徳天皇(にんとくてんわう)の御宇(ぎよう)に

勇儀武備の名ある事また
物語戯
乃性質
色々歩行
授刀孔雀
乃害とせ
山野の狐
乃狐小なる時
八陣乃引
武家小用

痛し是を思ふに先初祖の
脊く窮屈の故也し禮書と曰ふ上下
其外窮屈の故事用ゐざるは一切の故事
極簪と名付る物小袖ばかりを着
扇風の付たる物を結ぶ事も
もとく和漢通用とは成まじ
ず受給ひ於小色なぞ
鷹鶴總論
神書を和漢とわけて
小和朝とは

雉鳩 ちばと

形状雉に似て小し灰色を帯び頭に冠毛あり尾長し雄は胸に黒斑あり雌は斑なし雄雌相並んで飛ぶ雄鳴けば雌之に和す雌雄相愛して離れず雄雌共に能く子を育す雄は能く雌を守り雌は能く雄に従ふ故に古人之を夫婦の鳥と称す

本草綱目に曰く雉鳩は形状雉に似て小し灰色を帯び頭に冠毛あり尾長し雄は胸に黒斑あり雌は斑なし雄雌相並んで飛ぶ雄鳴けば雌之に和す雌雄相愛して離れず雄雌共に能く子を育す雄は能く雌を守り雌は能く雄に従ふ故に古人之を夫婦の鳥と称す

五穀を食ひ又肉食をも好む

淮南子に曰く雉鳩は五穀を食ひ又肉食をも好むと

淮南子に曰く雉鳩は五穀を食ひ又肉食をも好むと云ふ

渡り鳥にして秋の末に至れば必ず来り春の末に至れば必ず去る

渡り鳥にして秋の末に至れば必ず来り春の末に至れば必ず去る

多く群を為して飛ぶ

多く群を為して飛ぶ

よく雉鳩を捕ふ

よく雉鳩を捕ふ

多い鼠狐尾を合歓とす

多い鼠狐尾を合歓とす

和名抄に曰く雉鳩は一名鶻鳩と

和名抄に曰く雉鳩は一名鶻鳩と

雉鳩 ちばと

形状雉に似て小し灰色を帯び頭に冠毛あり尾長し雄は胸に黒斑あり雌は斑なし雄雌相並んで飛ぶ雄鳴けば雌之に和す雌雄相愛して離れず雄雌共に能く子を育す雄は能く雌を守り雌は能く雄に従ふ故に古人之を夫婦の鳥と称す

本草綱目に曰く雉鳩は形状雉に似て小し灰色を帯び頭に冠毛あり尾長し雄は胸に黒斑あり雌は斑なし雄雌相並んで飛ぶ雄鳴けば雌之に和す雌雄相愛して離れず雄雌共に能く子を育す雄は能く雌を守り雌は能く雄に従ふ故に古人之を夫婦の鳥と称す

五穀を食ひ又肉食をも好む

淮南子に曰く雉鳩は五穀を食ひ又肉食をも好むと云ふ

渡り鳥にして秋の末に至れば必ず来り春の末に至れば必ず去る

渡り鳥にして秋の末に至れば必ず来り春の末に至れば必ず去る

多く群を為して飛ぶ

多く群を為して飛ぶ

よく雉鳩を捕ふ

よく雉鳩を捕ふ

多い鼠狐尾を合歓とす

多い鼠狐尾を合歓とす

和名抄に曰く雉鳩は一名鶻鳩と

和名抄に曰く雉鳩は一名鶻鳩と

ろくろく赤ちゃん泣でる
ひろい電のごろもあれ
ろごろ爪いろろろ織のご
ふいろ頭いろろ卵ろ
物ろろ翅あろ腰ひろ
いぼまもろれとごろ夏ろ
ろろろ時ろいろ骨ほろ
六翅ろ
夏い蚊ろ
ろろ住ろ

眼いの孫ろ
ろろ項い手ろは
ろろ脾ひろ
ろろ肉ろ
ろろ頭い蒙
ろろ
ろろ
ろろ

大鷲考



青といひ紅白といひ又晨風とも云て代なよそれも名めかしをものそはめそ名ふくい敷種のたうはりてこゝに四十八種よわ今和漢をとくにもかゝはらすこゝ

(二)鷹 者よめ

大鷹 くまたか

角鷹 くまたか

小鷹 こたか

隼 はやぶさ

鷂雀鷹 はいたか

鷹 たか

黒鷹 くろたか

鵰 くまたか

山鷹 やまたか

鶻 はいたか

若鷹 わかたか

鷂 はいたか

兄鷂 このたか

鵰鷹 くまたか

未棄 こたか

鶻 はいたか

紘 ぬい

角鷹 くまたか



赤鷹　青鷹　肩濃
鵆　下鵆　底鵆　綠
野神　朱鷹　姉鷹
兄鷹　鵆　頭白
巢鷹　ろう鷹
鷹　類　玄　目白
上鷹　深山鷹　渋
万巢鷹　切鷹
鯉九　丹鷹
ささ鷹　掛鷹　宮掛
鷹　牡丹　頬赤　頬黒
鷹　鵆　頬白　頬切
鷹　鵆



鸇 羅鸇 鵰 老鸇 鵬鸇 鵰 三隈鸇 鵰 菊蒼鸇 鵰 鳶 仇鞆鸇 鵰 伊勢鳶 鵰 鳶 佐保姫鸇 鵰 鳶 鵰 鳶 生大鸇 鵰 鳶 鵰 鳶 七絢鸇 鵰 鳶 鵰 鳶 松田鸇 鵰 鳶 鵰 鳶 松 鵰 鳶 鵰 鳶 鵰 鳶

天鶯　鴫鶯　格鶯
雇鶯　鶸鶯　鶸鶯
下鶯　菊鶯　菊鶯
會鶯　駮鶯　駮鶯
二鶯　猿鶯　猿鶯
雜鶯　掬鶯　掬鶯
右鶯　右鶯　右鶯
病鶯　病鶯　病鶯

如鶯　掴如鶯　鼻もり鶯
閃如鶯　捕如鶯　猿鶯
鶯　子如鶯　こうろ鶯
如鶯　如鶯　白鶯
鳴鶯　象鶯　右乃介鶯
右乃介鶯　之鶯　ほーこへーとう鶯

三鶯　生鶯　赤生
堅生　横生　赤如生
黒生　赤如生　赤黄生
黄生　黄生　黄生

深山鶯

鸊鷉



くも志ほと

尾那の大石

小鷲

羅ら
さいはひ
さねより
とうだ
二将のゆ
を維古
ろう、
とう
とう
く糸の利
ゐゆ
にく
そろ
大四
四十
こ三て
めほろ
こてそ
依名
の数

兒鷹（ちごたか）

小白鷹

大鵬（たいほう）



鳥飼のこと



白生鷹

わかき人は乾ける
不潔のものを
とり水をよくして
食をあたゝめ
食べしかば極て
寒ふるびの野にて
餓ともすくなからず
みな体そこなふ
ものも多し食ものは
家よりもちゆく
銅鍋を用ふ
脂肪ありて
潔ろく肥をゞ
痩やすく病やもとほりやすし
痩ぬんぼを
肥をゞ
兎やうにして
湯にて

鵰（ふくろう）



鞆（とも）



にうそくれいこと
ゑぐ鷙鳥ハ肥痩
まれとよりつ
こゝろもと痩
こともまこと
肥痩ほとよく
時嵐
日嵐もろ
ゑ痩もも
食とゝ
屋すしと
もそれかゞ
坐ろ
ゑ
ゑ
ゑ

なるをとこ
おのが能よ
よくとぎたてゝ
鷹の餌を
あたへむとて
まづ土餌
力餌
様餌
餌
餌

六

蜂鳥

さぶろうこ
びゃうぶとまで
たくまんで
さけうろひ
ゐるに、
ふいてそこ
すわゆ
まく
そこ
て
ゆふ
ゆふ
乃至

のゆゑよしを
布の尾をとら
えてもろ人に
とゝそわが
うじろをよし
もと

七 呼ぶ

新客とよび
いろ〳〵もて
なすよびも
なきもよび
もはめ客
とよびて
まねきたる
ら尾を
らなる客
まねきたる
ら尾客と
称よびて

前像尾鷹



餌をうばひ
あそぶをたゞ
よくずしてそ
餌をうるうる
きこうめうどの
まねごともなり
ゐろひいもとを
まびわろひこと
中うをしまびて
のうるをこ
えまよのほり
又ばなし曲わらべ
飯ゝ丸こうる架
よ蚤をそへ
して餌とうるび
架とうるぞ
もぐも餌とう

石疊尾雀



幼鷹



山鶴鷹



逆生尾の鷹



いろどりたびくくそ
我がはなつ矢をもろ
みひこうそをそ
てくるそを我が胸
まてなすひこそ
寛六二月い按十日
お陽氣こうん
たうめるこそ午
うくいたる
秋そ八午こそ
はやくなびそ
時節こそ
たぐ旧蕃よ
うこそ

九更うち
鬼うう蕃こ更
そよひそうこそ
いそうよそる

真榛尾鳥



なるべくいそぎ雛を
いうころ雛とも
なったをえらびて雄の
えつくわをとり
そうたかとおぼし
これをえつはく
びこうちをそえ
ものを箕とうて
まよわうずる
こやぐそ笑縄とか
けうち思べし
雛をかい
とるたつもの
えぐまうけなの
そなうふひうち
なげひとおもし
ていこうち雛
さくにそれば



くんぜもそれにて
寒と雪もそろ
ひくそれべそ
さにらぬよ
そろと公
十一 架のよ
架いけろ
ろずん物
ろおうしく
ばいとそろ
陽とそうし
ぬろけ
ろもしろ
ぐぐだ
格柱架花
格外格
野格寒者

五歳鷹

鯉切鷹



鷲鷹

をとりかへ
ず回陵乱飛
ねぐらより最下
るりこうそ
もあらそふ
たゝよふ
ものゝ雄雌
んでは雌
い雄ろはよれ
もそえさ
雛を
たゝ道

そえる
を離て
り雛と
もれそ
ど

足大鷹



鷹ようやまくに
それ鷹ハ性こと
てきわめよ猟をよ
猛白猟してそ
ちなつしへ膽ひ
わらしへ罹とう
昼夜調養をそ
愛雪う急人は
ゐまて処覚う
てそそもやく
ちゆうあひだ
そう飲啄い
ひそそもも
とうびやまく
ど向ひあひと
孫く星山のま
教草とうんそ
ゐまりて方をた
性猟

鷗揚鷹



龍腦九
龍腦半分　大黃五分
人參三分
右三味龍腦をまぜ細末し
て合れ腦を入てまぜあは
せ赤小豆ほどの丸にし
て每服二丸白湯にて
つ用べし
當歸散
當歸一分　大黃三分
右三味をこまかに末重復

目白鷲



みくせんじ湯
うちほゝべ
皂角散
皂角 五分
ねつこざこゑあつ
まぐさんはせんじ湯
ほをすゝやくる
さしくはし
黄連散
大黄
黄連
黄柏
蒲黄
各一匁
人参
右こざこゑあつ
まぐさんはせんじ湯
やして用ゆべし
朱砂散
朱砂 雄黄 各一分
麝香 半分 三稜 三分

鳩顋鷹



山薬流
大戟
右急性浮腫
千金子 各一
蒲黄 各一分
猪肝団
とり薬
煎じ
そのうわ水
五九服
水銀 半分
麝香 各一分
軽粉
右とりあつめ
出あぶら
ひまし
ねりそ
たまご
食べ

眉目鷹

ひ尿おさまりほ
鼻ろ乳熱し
ろく気をそろ
き祈ろそ
毛ろよろざ
る病ね龍松
連丸ま角
一鷹そ一息を
とろめくるぬさ
るんざろふ先
ま角へ一
すもし朱
んば皂角散を代
ろゆ色
鷹の物よおこ
見そまろあろ
當飯散ま角ゆ
鷹の喘急し

鷹顏鷲



ふさう味わ
まを肉よ
だし一入黄柏實
ちらぐれ肉よつ
くもすみく
くそと鉢し
と三七灶
一鷺の脚
肉よりい
と鉢して鉢の
玉所根をい
むまだいゆく
一鷺るぐいて
ぐんい山椒の
の男女乳よ
て用よいくよ
又雛脆と乳

鷺顔鷹



同よりくもり
雄鷹晴もり
一鷲和のよう
同りもり
撓子乃細末を
乳よ隊
乃もて白乃
いもろ
一隻外拠
色白青りて
もろよい甘
そそん肉
うろ
一鷹鼠備
多よい鷹狩松
味と細末りて
もろ
そりて癌
て重便とめ



入見鷹

鷲の顔鷹



そこにかりそめに
つよりうさぎ白鷺黄狗
鴨白鷺黄狗
をそろそろとおいまわし
たうめのきのこと
ほうほうとうろうろ
まえてきをもつ
又鷹のたゝかひ
茅を囲のもれあひ
ひべそこそこ又鷹一
いろをまじへよい柳
ろよりも出ろ
もみぢのごとく野火あと
とりとりてそろ
よはの虫をそろ
にてつゝ食よ和
ろ死ん鷹ろ
まなごとく妙

雪下鷹



掃充鷹



め祢ぎそんみいなそく免
乃国をそぎほろぼすに
人多死ぬ
ましてうたゝ
(重)渚國乃
そも〳〵鷹乃三毛
おもなるあらくよ
てえしそ
ほう天皇
場とい人
て伊勢乃
冊国そ
い石海
物とい
てい祢
ま祢い雄
雪見そ
いふそ

俱見鷹



てうそそうそ
そうちうとう
鷲南蠻鷲
毛人鷲
肉雁鷲
鷲四國雁鷲
築紫第雁鷲
よなり

(大)雁鷲近江
鷲俊鷲鈍
よい雁鷲
流よい鷲
紡績よい雁
必不取紡
鷲
鷲
鷲

…ふ事を
…ものすり
十七 鶉を食ふ事
鍋にて煮て食
粕漬にて食
味噌漬にて食
縮緬煮にて食
小袖煮にて食
乱れ煮にて食
猪肉を食ふ事
猪肉を食
牡丹煮にて食
鶏冠を煮て食
毛皮にて食
皮にて食
打物にて食
十八 字を盡す事
足革
御沓 袋革
冠革

入撃手 打 放鷹同 名組者 通 格跨 流緒 液像 逸 脚 天狗 通 小撫 繋 餌 籠 餌 籠 餌 死 俾 餌 養 餌 養 妻 妻 餌 養 餌 養 餌 養

子孫同居
居而孵巢
巢父居上
巢母巢育
巢旁巢動
巢溢巢傍
巢迫種近
氣危繫人
合就白金
紀七紀人
船危銭
翡連雀
大形鷲
小形鷲
鵰
為入
把痩撓百
給畜

鷹

鳶



雛間 雛ヲ離ス 巣立 帰巣 餌食 小水車 血経 温血 嘴 二日 砕 餌飼 四日餌 自砕 餌飼 孔明 呼音 鳥媒 桜雀巣 唯集 虎子渡 志餌 試光 狐取 三光 足放 一合 水合 百合 羽搏 翔 鵄 鵰 鵄 鵰 鵄 鵰

計稀鷲鷲
振回食助福
為鵄振振居
本居鵄本居
居羽漁羽狀
芸入鵄鵄
大雄柄雄
毛雌本當
兄鳥唯
食當
痩鳥
雌老
同當同
鳥鳥
鵄題新鳥
思妻寢
及老

角鴟







切齒 未老 磋水 伏犬
窠節 揩名筆 小竿 月壁 稱
和猪 曉狩 初猪 鷄猪 鷄猪
草袖細 韋 鞋 仔賀袴 裁
黄 老家 打家 生音 老婆
遣 鼯 當麩

(十九)
多名乃手
翅翎 鴟名 擊征
胡月 製紐 迷雲 整
鈎凡 凡翊 制電 金眸 青翅 黄眸
晨風 低渠 漁陽白
海茶青 凌雲君 鷄鳴 玉爪 負雀
老奉 雄姿

(廿)
青敷
玉玉
青眞
遠气
六翮
題眉
金距
貪鑑
狗異名のもの
青曹 韓獾 鈴蹄
白靈 黄耳 烏龍
為賞 南口

(廿一)
染紙
宗敷
修毫
匂濃
夢と元時 平弄 纏

鷹之事
小角ゟ
分類八十
そむ色し
天智天皇
一條院の
大澤巣
隼遣巣

(十三) 上古の名鷹

赤目　鷂屋
磐手の野守森

(十三) 奥羽鷹巣の名
山村巣
富沢巣

(十四) 鷹の故事

醍醐天皇の白児鷹
後一條院の御代
黒川巣
矢倉巣

上黒川巣

月上旬ゟ
綱ゟ目
四方一寸八
色く
傳ゟ
ゟ寄
油田巣
大爪巣

楚王の文雲夢ゟ
ゟそ
ゟそ
ゟ血

たてまつらんとて、ふみ書きて、
ちはやぶる神の御前にぬかづきて
いのり申すぞ我が心
てまつらん
こころ
こころ
こころ
こころ
こころ

寄文社

仁義理古武志

鷹之書

全

UNIVERSITY OF KANSAS LIBRARIES
D1410
RARE BOOKS

仁義理古志

UNIVERSITY OF KANSAS LIBRARIES
RARE BOOKS
D1410